

令和元年度

瑞穂町青少年国際派遣事業

報告書



MIZUHO JAPAN



CITY OF MORGAN HILL

瑞穂町教育委員会

Mizuho Education Board

1 派遣期間

令和元年8月15日（木）～8月25日（日）

2 派遣団員（10名）

瑞穂町教育委員会	教育部長	小峰 芳行（団長）
	社会教育課推進係	菅谷 昌義
学生	瑞穂中学校1年	飯田 陸夫
	瑞穂中学校2年	大山 真央
	瑞穂中学校3年	志村 果恋
	瑞穂中学校2年	鈴木 杏
	瑞穂中学校1年	高野 愛彩
	瑞穂中学校2年	藤森 博子
	瑞穂第二中学校2年	保坂 征
	瑞穂第二中学校2年	吉積 麻弥

3 派遣場所

アメリカ合衆国カリフォルニア州モーガンヒル市（瑞穂町姉妹都市）

4 派遣の目的

姉妹都市モーガンヒル市に中学生を派遣することで、交流を深め、国際感覚を養うとともに、社会性や自立性、感性の向上を通して双方の良さ、ひいては日本のよさを認識することを目的とします。また、ホームステイを通じて、アメリカと日本の文化や慣習の違いを学ぶとともに、日常会話に必要な英語力を身につけ、コミュニケーション能力を高めます。また、この国際派遣研修を通じて学んだことを、今後の瑞穂町を担う青少年として、大いに活用していただくことを目的とします。

※別添「実施計画書」参照

5 派遣団員選考

町内各中学校にチラシ配布、広報において派遣団員を募集したところ、23名の応募がありました。（男子9名・女子14名）

対象は町内在住、在学の中学生。作文審査と面接審査の合計で選考。

作文テーマ「モーガンヒル市で学びたい事～今後への活かし方～」

※別添「選考要領」参照

6 事前研修

モーガンヒル市等での現地研修に向けて、下記の日程で実施。

第1回事前研修 令和元年6月12日（水）

内容：自己紹介、集合写真撮影、青少年国際派遣事業概要説明、渡航手続き・保険加入・ESTA申請等、派遣団員ポロシャツ、各自報告の研究テーマ決定、歓迎パーティー及びさよならパーティーでの出し物について

第2回事前研修 令和元年7月1日（月）

内容：提出書類の回収、歓迎パーティー及びさよならパーティーでの出し物の練習

第3回事前研修 令和元年7月17日（水）

内容：姉妹都市委員会の方による研修、前回派遣団員との情報交換、旅行会社による研修

第4回事前研修【結団式含む】 令和元年7月31日（水）

内容：瑞穂町長及び教育長と派遣団員による結団式（派遣団員の抱負、町長・教育長からの激励）、持ち物の確認、派遣期間中の行程確認、歓迎パーティー及びさよならパーティーでの出し物の練習

第5回事前研修 令和元年8月6日（火）

内容：現地研修に向けた最終確認、持ち物の確認及び渡航最終確認、旅行会社による研修、出し物の練習

7 現地研修

- (1) モーガンヒル市姉妹都市委員であるメアリー・ワカツキ氏、ブライアン・シロヤマ氏がコーディネーターとして、空港での出迎え及び見送り、滞在期間中のスケジュール管理及び進行等、現地での調整をしていただきました。
- (2) モーガンヒル市の中学生との交流、姉妹都市委員会との交流、ホストファミリー、モーガンヒル市姉妹都市委員会の方々や同年代の子どもたちとの交流を通じ、若い世代が将来にわたり両市町間の友情を引き継いでいくことができました。派遣された中学生8名が、10日間で多くの体験をし、同年代の人たちとの意見交換、また、アメリカと日本の制度の違いなど多くのことを学びました。
- (3) モーガンヒル市施設見学など瑞穂町や日本との違いを身近にして、多くのことを学ぶことができました。
- (4) 学校訪問は、その日訪問予定の学校に通うホームステイ先の子どもと派遣団員と一緒に登校するという方法で、その他の派遣団員は朝集合して、引率者を含め一緒に学校に行くという方法をとりました。学校に着いたら受付をして、中に入り校長先生や事務員の方の説明を受けました。学校での過ごし方は2通りあり、1つ目は校長先生等が学校内を案内していただけるパターン。この場合は全員と一緒に授業を見学・参加したり、学校内の施設（図書館等）を見学しました。2つ目はホームステイ先の子どもや『シャドウ』と呼ばれるパートナーを各自1人ずつ付けて、その人と一緒に実際の授業をそれぞれ受けました。2つ目のやり方は、日本側で受け入れている年の方法と同じで、ホームステイ先の子どもと一緒に同じ授業を受けました。瑞穂町で受け入れている時のように各中学校に分かれて通う訳ではなく、1つの中学校に全派遣団員が入り、学校見学もしくは実際に授業を受けるという方法をとっていました。
- (5) 歓迎パーティーでは、ホストファミリー10家族の方々から盛大な歓迎を受け、ポットラック形式（参加者持ち寄り）による夕食会が開催されました。《モーガンヒル市側の主催》

(6) さよならパーティーでは、モーガンヒル市評議員、教育長、姉妹都市委員会の方々、ホストファミリー、多くのボランティアの方々に出席していただき、ポットラック形式（参加者持ち寄り）による夕食会が開催され、派遣団員各自が練習した出し物の披露をしました。《瑞穂町側の主催》

出し物		担当者
1	ピアノ	吉積 麻弥
2	ピアノ	志村 果恋
3	口笛	保坂 征
4	バドミントン	大山 真央・藤森 博子
5	ダンス	高野 愛彩・鈴木 杏
6	手品 もしくは歌	飯田 陸夫
7	歌 (A WHOLE NEW WORLD)	全員
8	ダンス (YMCA)	全員

8 現地研修行程

月 日 (曜日)	時 間	スケジュール	備 考
令和元年 8月15日 (木) 【日本時間】	10時00分 12時40分 17時00分	派遣団員 スカイホール 出発 成田空港 到着 成田空港 出発	・総務課契約の大型バスで移動 ※UA838便
令和元年 8月15日 (木) 【以下米国時間】	10時25分 12時10分 18時30分 19時30分 20時30分	サンフランシスコ空港 到着 サンフランシスコ市内視察 LA QUINTAホテル 到着 夕食 (マクドナルド) LA QUINTAホテル 宿泊	・コーディネーターの出迎え (メアリー氏、ブライアン氏) ※手配したバスで移動
令和元年 8月16日 (金)	10時00分 13時00分 14時20分 17時45分 18時25分	モーガンヒル市役所・議会棟 見学 モーガンヒル図書館 見学 CCC、CRC 施設見学 MHBCCで歓迎パーティー 各派遣団員がホストファミリー宅へ	・コーディネーター等の車で移動 ※市長・評議員等と懇談・昼食会 ・ホストファミリーのみ出席
令和元年 8月17日 (土)	8時00分 9時30分 12時20分 15時45分	MHBCC 集合・出発 モントレイ水族館 観覧 モントレイ ベイエリアで昼食 ホストファミリー宅で交流会	・コーディネーター等の車で移動 ※プール&BBQ
令和元年 8月18日 (日)	終日	ホストファミリーと過ごす	
令和元年 8月19日 (月)	8時00分 9時00分 12時35分	MHBCC 集合・出発 SJSU 見学 技術博物館 観覧	・コーディネーター等の車で移動
令和元年 8月20日 (火)	8時00分 8時30分 13時00分 18時00分	MHBCC 集合・出発 中学校訪問 (JAMM、SMG) VMM見学 MHUSD 出席	・コーディネーター等の車で移動 ・学校体験 (授業に参加しました。) ←引率者のみ
令和元年 8月21日 (水)	8時15分 8時30分 14時40分	MHBCC 集合・出発 中学校訪問 (Britton中学校) 馬厩舎 施設見学	・コーディネーター等の車で移動 ・学校体験 (授業に参加しました。)
令和元年 8月22日 (木)	8時00分 8時30分 14時10分 19時00分	MHBCC 集合・出発 中学校訪問 (Martin Murphy中学校) Machado学校 施設見学・体験 MHSC 出席	・コーディネーター等の車で移動 ・学校体験 (授業に参加しました。) ※Q&A方式で昼食 ←引率者のみ
令和元年 8月23日 (金)	7時50分 8時30分 17時45分	MHBCC 集合・出発 中学校訪問 (Charter学校) MHBCCでさよならパーティー	・コーディネーター等の車で移動 ・学校体験 (授業に参加しました。) ※出し物を披露しました。
令和元年 8月24日 (土) 【以上米国時間】	8時00分 8時55分 11時45分	MHBCC 集合・出発 サンフランシスコ空港 到着 サンフランシスコ空港 出発	・コーディネーター等の車で移動 ・コーディネーターの見送り ※UA837便
令和元年 8月25日 (日) 【日本時間】	14時30分 18時05分 18時10分	成田空港 到着 スカイホール到着 解散	・総務課契約の大型バスで移動

- ※CCC=Morgan Hill Community & Cultural Center・・・会議室を備えたコミュニティ・文化施設。
- ※CRC=Centennial Recreation Center・・・プールやトレーニングルーム、ドッグラン等を備えた施設。
- ※MHBCC=Morgan Hill Buddhist Community Center・・・モーガンヒル仏教徒センター
- ※SJSU=San Jose State University・・・サンノゼ州立大学
- ※技術博物館・・・The Tech Interactive
- ※JAMM=Jackson Academy of Math & Music 学校の略称
- ※SMG=San Martin-Gwinn 学校の略称
- ※Britton 中学校=Lewis H. Britton Middle School
- ※Martin Murphy 中学校=Martin Murphy Middle School
- ※Machado 学校=Machado School
- ※Charter 学校=Charter school of Morgan Hill
- ※VMM=Villa Mira Monte・・・ハイラム・モーガンヒル氏が妻に送った家と隣接する博物館
- ※MHUSD=Morgan Hill Unified School District・・・モーガンヒル統一区教育委員会
- ※MHSC=Morgan Hill Sister Cities・・・モーガンヒル姉妹都市委員会

さよならパーティーのプログラム

- 14：40～16：30 出し物練習・音響システム準備
※引率者はテーブル等のセッティング
- 16：45 招待者を迎え入れ（入口で派遣団員からお土産を渡す）
- 17：45 開会 ※司会はメアリー氏・ホストファミリー
①ホストファミリー他、関係者へのお礼
②来場者の紹介（ホストファミリー、教育長、評議員、姉妹都市委員ほか）
- 18：00 食事
- 19：00 瑞穂町派遣団員の紹介・お礼
①小峰部長のスピーチ
②瑞穂町派遣団員のパフォーマンス
③ホストファミリーから派遣団員10名に贈り物を渡す。
- 19：45 閉会・解散
- 20：15 片付け終了

9 事後研修

現地研修後に、こどもフェスティバルでの青少年国際派遣事業写真展や青少年の主張意見発表会で報告する為、事後研修を実施。

第1回事後研修 令和元年9月9日（月）

内容：写真等の提出（現地写真データ及び報告書、感想文）

●写真…青少年国際派遣事業写真展で利用

（10月20日（日）こどもフェスティバル）

●報告書…青少年国際派遣事業報告会で利用

（11月30日（土）青少年の主張意見発表会）

第2回事後研修 令和元年10月1日（火）

内容：青少年国際派遣事業写真展（こどもフェスティバル）パネル作成

第3回事後研修 令和元年10月19日（土）

内容：青少年国際派遣事業写真展（こどもフェスティバル）パネル作成、
展示準備

第4回事後研修 令和元年10月20日（日）

※第13回こどもフェスティバル【青少年国際派遣事業写真展】

派遣団員が作成したパネルを来場者に説明しました。

また、11月9日（土）・10日（日）に開催された第49回産業まつりの際、瑞穂町姉妹都市委員会ブースでもパネルを展示しました。

（姉妹都市委員会（企画課）から借用願あり）

第5回事後研修 令和元年11月11日（月）

内容：青少年国際派遣事業報告会（青少年の主張意見発表会）リハーサル

第6回事後研修 令和元年11月30日（土）

※第35回青少年の主張意見発表会【青少年国際派遣事業報告会】

派遣団員が研修テーマについてパワーポイントによるスライドを上映しながら報告しました。

10 派遣団員報告

各派遣団員は、事前に設定した研修テーマを現地で調査し、報告書を作成しました。また、それぞれの感想文も作成しました。



①飯田 陸夫 瑞穂中学校 1 年

【ホームステイ先】 8/16-8/18 Robert “Esteban” Schambach さん家族

8/19-8/21 Aiden Lopes さん家族

8/22-8/24 Colin Curto さん家族



【報告書】『動植物について』

僕はモーガンヒルに行って、さまざまな動植物を調べました。

モーガンヒル市の植物には、日本でよく見るクヌギなどの木がありましたが、乾燥しているため、木の肌（表面）はブロックのようにボコボコとしていました。市内の湖の近くでは、トゲトゲした野生の植物がたくさんありました。市内の丘陵地に生息する動物として、日本の丘陵地ではなかなか見られない鹿を見ることができました。

街中の生き物を調べていた際に、日本では堂々としているアリがモーガンヒル市では逃げ回るほど弱い存在として生きていました。

以前テレビで外国のアリを見た際、凶暴で強い生き物のように紹介されていましたが、モーガンヒル市にいたアリは人が近づくとすぐ隙間に逃げてしまったので驚きました。

また、海に行った際、港の周りにたくさんラッコがいたことに驚きました。僕が持っていたラッコのイメージは、人気のない静かな場所で泳いでいるのを想像していたため、実際に間近でラッコを見た時は非常に驚きました。その他、ヒトデが日本に生息するものと比べて異常に大きかったのには驚きました。

次に驚いたのは、乾燥地帯の湖にカエルがいたことです。日本のカエルは、森林や水田といった場所に生息していることが多いため、乾燥地帯にも生息していたのを見た時は驚きました。

僕がモーガンヒル市などアメリカで動植物を調べて思ったことは、日本にも生息する同じ動植物はいるものの、生態等が異なっていることが分かり良かったです。



【感想文】

モーガンヒル市でホームステイして特に印象に残ったことを紹介します。

1つ目、アメリカはどの家も大きいということです。僕は派遣期間中、3家族の家でホームステイしたのですが、その内の1家族、エイデン君の家には、庭にプールやとても大きな遊具がありました。

次に、3家族の内の1家族、エスティファン君のお父さんは、宝石や化石の収集、ゲームやサイクリングが趣味でした。ゲームやサイクリングが趣味という人は日本人にも多数いますが、宝石や化石の収集が趣味という人はなかなかいないと思うので驚きました。

最後の1家族、コリン君はとても鮫が好きだという話を聞いた時、僕の周りにはそういった人がいなかったので印象に残りました。

2つ目、ホームステイして驚いたことは、家の冷蔵庫にウォーターサーバーが付いていたこと、自動でプールの底を掃除してくれるロボットがあることです。その他、プールがあること自体にももちろん驚きましたが、そのプールに洞窟を再現した造形物があったり、ウォータースライダーが付いていたり、夜になると、プールがライトアップされたりするところが非常に驚きました。庭には大きなキッチンやピザ焼き機があり、日本ではな

かなか考えられないような光景を見ることができました。

3つ目、小学校では校長先生が移動のために校庭内でスクーターに乗り、日本と違い制服が無いことから私服にピアス、アクセサリを身に付けて通学していることに驚きました。

最後に、僕はモーガンヒル市に行く前から疑問に思っていたことがありました。それは、夏であれば暑いから海水浴をするのだろうと思っていたのですが、行ってみると日本のように暑くなく、水温も低かったため、とても海水浴ができる環境ではないことが分かりました。

僕にとってモーガンヒル市でホームステイしたことは、とても良い経験となりました。瑞穂町には米軍基地があり、アメリカ人を見ることはありますが話す機会はないため、実際にアメリカに行ってみて、アメリカ人はとても友好的だと感じました。

②大山 真央 瑞穂中学校2年

【ホームステイ先】Megan Cahill Mallory さん家族



【報告書】『生活習慣について』

私がホームステイを通して、アメリカの生活習慣等について、経験や観察

してきたことを報告します。

1つ目、家の中では基本的に靴を履いたままの生活でした。私のホームステイ先の家族は、ハリウッド映画の代表作でもあるハリーポッターやスターウォーズ、スパイダーマン（マーベルシリーズ）といった映画が好きだったので、大きなソファでくつろぎながら、大きなテレビで一緒に観ました。その際、ソファに座る時も靴を履いたままだったのですが、日本ではなかなか経験できないので、凄い経験をすることができました。

2つ目、人が集まる中心街では多くの場所でアメリカ国旗を見ることができました。日本では祝日等の時に国旗を掲げることはありますが、たくさんの国旗が掲げられていたので非常に驚きました。

3つ目、学校について、お菓子やスマートフォンを学校に持って行くことができることや、パソコンを使う授業が多く、アメリカではあまり黒板（ホワイトボード）を利用していませんでした。

色々なことが日本とは違っていたため驚きましたが、今回ホームステイに行けたのは良い経験になりました。



【感想文】

昔から大好きなアメリカに、「ホームステイ」という形で行くことができ、本当に良い体験になりました。

アメリカでホストファミリーに初めて会った時は、日本語が通じないことから不安で、すごく緊張して全く話ができませんでした。最初のうちは、ホームシックになってしまうのではないかなと思うくらいに、震えながらも頑張って会話していました。

歓迎パーティーを終え、ホストファミリーの家に着くと、フレンドリーなセントバーナード「モーツァルト」が迎え入れてくれました。荷物を置

いてすぐ、ホストファミリーが部屋の紹介をしてくれました。日本の家庭には無い、ゲームセンターによくあるエアホッケーや3Dプリンターがあって非常に驚きました。初日は少し不安でしたが、ぐっすり眠ることができました。

そして、少し生活に慣れてきた3日目、私は遊園地に連れて行ってもらいました。アメリカのジェットコースターは、日本のものよりも迫力があって楽しかったです。その日は、他のホストファミリーの家にお泊りしました。その家ではテーブルゲームをして、ミサンガを作ってもらいました。

それからサンノゼ州立大学を見学しに行ったり、色々な学校で学校体験をしたりして、あっという間に5日間が過ぎました。

一番最後に行った **Charter** 学校にはすごく良い思い出が残っています。

「いつ日本に帰るの？」と聞かれて、「明日だよ」と答えると、「明日？じゃあこれあげる！」と身に着けていたミサンガを私の腕に付けてくれました。お昼御飯は仲良くしてくれた子達と一緒に食べました。帰りには、皆とハグをしてお別れしました。

8月23日（金）夕方から、さよならパーティーが始まりました。私の出し物は、スーパーマリオの曲に合わせてバドミントンをするというものだったので、仮装のためにひげを付けました。ちゃんと楽しんでもらえるか不安だったけれど、「すごく良かったよ！」とほめてもらえたので良かったです。そして閉会のスピーチが始まったところで、今までこらえていた涙がこぼれ落ちてきました。皆泣き始めて、皆でハグをしました。国を超えた友情が確かにありました。

これらの出会いは全て「運命」だと思います。今回の経験で自分の英語に自信がつき、もっともっと英語を学びたいと思いました。私は大人になって、今よりも英語が話せるようになったら、また必ず皆に会いに行きたいです。

③志村 果恋 瑞穂中学校 3年
【ホームステイ先】Isabel Piccini さん家族



【報告書】『日本との違い』

私はモーガンヒル市に行き、日本との違いについて学んできました。

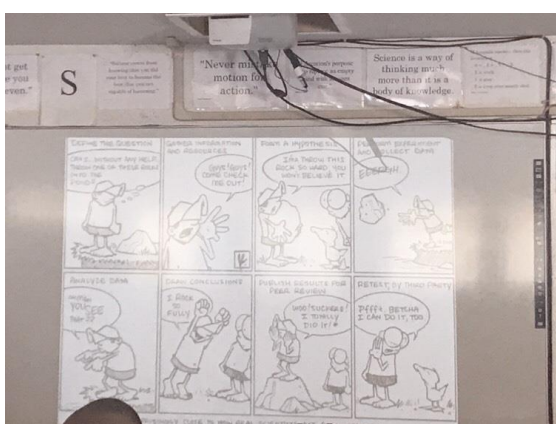
1つ目の違いは、学校についてです。日本の中学校は50分授業で10分休憩をしています。5つの学校を学校体験して知ったのが、どこの学校も授業時間に違いがあり47分授業で3分しか休憩がないところもあるなど、忙しそうにしていました。ただ、日本のように授業が延びたりする事はありませんでした。そして2時間目の後にランチという10分間の休憩があり、お菓子を食べたり、バスケットボールをしたりしていました。日本では、学校にお菓子やスマートフォンを持って来てはいけないため、非常に驚きました。そして授業は黒板ではなく、全てのクラスがプロジェクターで授業をしていました。先生が黒板を書く時間を省くことができ、その時間を生徒の様子を見たり、指導する時間に充てることができるため、日本より効率が良いと思いました。一番驚いた事は、授業中に先生がお菓子を配ったりしていた事です。その他、教科書を置いているロッカーが外にあったり、各教科の先生の部屋に行って授業を受けたりと、驚く事がたくさんありました。

2つ目の違いは、食べ物についてです。日本でLサイズの物がアメリカで

はMサイズであつたり、何もかもが大きかったです。私が外食をした場所は全て、飲み物を自分で入れる仕様になっていて、好きなだけ入れたりしていました。コップの大きさが高さ30cm以上あるのもありました。ちなみに、私が外食した店舗のほとんどが炭酸飲料かレモネードしかありませんでした。この時、緑茶がものすごく恋しくなりました。ハンバーガーは特に大きく、お肉も分厚く、一口でバンズからバンズまで食べられませんでした。ポテトも太くてそして量もたくさんありました。その後、ロールアイスを食べました。やはり日本よりアイスの量が大きいいけど、ものすごく美味しかったです。

3つ目の違いは、道路が日本と逆だったことです。空港に着いて、バスに乗ったとき、日本と逆なことに少し違和感がありました。

最後に、日本と最も違うところは、皆フレンドリーな事です。私が学校に行った時、皆あいさつをしてくれたり、名前を聞いたり、よく質問をしてくれました。英語で伝わらなかった時はしっかり私の目を見て、ゆっくり話してくれたりしてくれました。それでも聞きとれない単語があった時は、辞書等で一緒に調べてくれて、皆優しくかったです。



【感想文】

私は初めて海外に行きました。正直アメリカに行くのは少し怖かったし、中学3年生の夏休みは受験生にとって、全ての教科の復習をしなければならない時期ではありましたが、結果として行って良かったです。10日間という短い期間で、たくさんの人達と仲良くなることができました。

私がホームステイした家族は、皆明るくとてもにぎやかでした。ホストファミリーと初めて会った日は、とても緊張していました。もしかしたら、ホームシックになるのかなと思っていたのですが、全然そんな事はなく楽しく過ごすことができました。初日に夕日を見に行こうと言われ見に行ったら、

凄く綺麗だったので、ずっと見ていました。

土曜日、全派遣団員とホストファミリーとで水族館に行きました。私は水族館が好きなのでとてもわくわくしたことや、入口にいた小さなクラゲがとてもかわいかったのが印象的でした。また、ホストファミリーからラッコのぬいぐるみをプレゼントしてもらった時は嬉しかったです。

日曜日、遊園地に連れて行ってくれました。日本には無いようなユニークな乗り物がたくさんあり、いつも苦手な絶叫マシンにも乗り、ものすごく楽しかったです。その後ショッピングモールみたいな所に連れて行ってもらって、買い物をしました。その時、30cm 近くのかき氷をホストファミリーと一緒に食べたことは、とても良い思い出となりました。

サンノゼ州立大学に行った時、今の英語のレベルでは一人で留学するのは難しいなと思いました。私は将来留学したいと思っていますが、もっと英語を勉強しないといけないと、その時改めて感じました。

別の日、突然ご飯を食べに行くよと言われて、ハンバーガーを食べに行きました。その後アイスを食べに行くよと言われ、店舗を出てアイス屋さんに行く途中に名前を呼ばれ驚いていたら、なんと去年、日本に国際交流事業でホームステイしに来た3人の子が来てくれて、ものすごく驚きました。男子は身長が高くなって、女子は大人っぽくなっていました。私はその時一緒にいた藤森博子さんと再会を喜び、非常に楽しい一日となりました。

あっという間に時間は過ぎ、気づいたらさよならパーティーの前日で、日本に帰る実感がありませんでした。それほど楽しく充実した10日間を過ごすことができました。これから、英語で会話がきちんとできるように、英語をもっと勉強したいと思います。そして来年、日本に来る子達と会話のキャッチボールが続けられるようにしたいです。

また帰国後、改めて留学してみたいと思いました。とても楽しかった10日間でした。本当にありがとうございました。

④鈴木 杏 瑞穂中学校 2年

【ホームステイ先】Sofia Ruiz- McGinty さん家族



【報告書】『食生活について』

滞在期間中の食生活について報告します。私がホームステイしたお家の朝食と昼食はだいたい決まっていました。

まず、朝食についてです。平日はシリアルとクロワッサン、フルーツでした。シリアルの量はかなり多かったです。牛乳をかけるかヨーグルトをかけるか選べるようになっていました。飲み物はオレンジジュース、寒い時はホットチョコレートでした。とても美味しかったです。休日はホストファミリーと一緒にパンケーキを焼いて食べました。メープルシロップ、ジャム、マーガリンをトッピングすることができました。他にもスクランブルエッグ、ベーコン、フルーツを食べました。

昼食は、ホストファミリーが持たせてくれたお弁当を学校内のカフェテラスのような所で、学校の子達と一緒にお弁当を食べました。お弁当にはサンドウィッチ、フルーツ、お菓子が入っていました。フルーツはいちごなどのベリー系だったり、いちごとすいかの両方だったり、毎日変えてくれたのですがとても美味しかったです。でもやっぱり量が多くて、時間内に食べ切れませんでした。

夕食は日によって様々でしたが、お肉中心でした。出掛けた所で食べるこ

とも多かったです。また、私のホストファミリーの家では、アメリカの「Thanksgiving（感謝祭）」の流れを再現してくれました。1日目はグリルチキンとお米を食べました。2日目はメキシコ料理を食べました。ホームステイ先のお父さんがメキシコ出身のため、チキンを使った「タキートス」というものを作ってくれました。作り方は家庭によって違うそうですが、チキンを小さいトルティーヤで巻いて揚げたものでした。この上に豆をペースト状にしたもの、サワークリーム、チリソース、アボカド、チーズをトッピングできるようにしていました。私は辛いものが食べられないので、チリソース以外のものをトッピングしたのですが、初めて食べるし、自分に合うかなと思ったのですが、とても美味しかったです。3日目は、カツとブロッコリー、マッシュポテトでした。「本当はもっと大きいチキンを使うんだよ」とか色々教えてもらいました。

10日間、アメリカでの食生活を体験して感じたことは、量が多いということです。学校でも授業の間に軽食を食べられる時間があったり、家でも夕食の前にお菓子を食べていたりしたため、「お腹が空いた」と思う時間が無かったです。また家では常にジュースを飲んでいました。食べ物が口に合うか心配でしたが全てが美味しくて、学校に行くことだけでなく、食べ物の面でもアメリカを楽しめて良かったです。



【感想文】

私は今回、ホームステイやアメリカの学校で学ぶこと等、色々な体験をすることができました。

私は今まで外国に行ったことがなかったので、パスポートを取得することから始まりました。パスポートを受け取って、スーツケースを買って、荷物を詰めて……。出発の日まではあっという間でした。「英語が通じるかな」、

「ホームシックにならないかな」、「税関が通れないと入国すらできないな」など、私は色々と心配していました。でもいざ行くと、日本とは全く違う街並みだったので心配していたことを忘れてしまうぐらい、圧倒されてしまいました。1日目、宿泊先のホテルでは「明日はいよいよ家族に会える」と大興奮でなかなか眠れませんでした。

そして2日目の夕方。ホストファミリーのソフィアさんと初めて会いました。写真でしか見たことがなかったのですが一目でどの子か分かり、ソフィアさんも私のことが分かったようで、すぐにハグをしました。私達はすぐに打ち解け、仲良くなることができ、9日間のホームステイ生活が始まりました。

ソフィアさんはとても優しい子でした。ゆっくり分かりやすいように話してくれるし、私の言っていることもちゃんと聞き取ってくれました。だから、すごくラフに話すことができ嬉しかったです。ソフィアさんの妹もハグが大好きで、とても人懐っこい子でした。ユニコーンが大好きで、部屋がユニコーンだらけだったのが印象的で、学校にネコ耳を付けていくような、とてもかわいい女の子でした。お父さんもお母さんとても親切な人で、色々と確認してくれて、すごく落ち着いて家に居ることができました。また、家ではなるべく多くの時間を一緒に過ごしたくて、空き時間には一緒に映画を観たり、ゲームをしたりしました。テレビゲームもボードゲームもやったことのないものだったので、ルールを英語で理解しないといけなくて少し大変でしたが、とても楽しめました。

他にも家族と一緒にサンタクロスの遊園地やピザ屋に行ったり、映画を観に行ったり、ターゲットに買い物に行ったり、ソフィアさんの祖父母の家に行き、親戚も含め交流をしました。毎日毎日楽しかったのが最高の思い出となりました。

また、派遣団員としてサンノゼ州立大学に行けたのが良かったです。留学に興味があったので、とても良い勉強になりました。

楽しんだ分だけお別れは辛かったですが、10日間を有意義に過ごすことができました。とても良い体験ができて良かったです。

⑤高野 愛彩 瑞穂中学校 1 年
【ホームステイ先】 Autumn Hoppa さん家族



【報告書】『文化や地域の施設について』

滞在期間中に体験や観察して学ぶことができた文化や地域の施設について報告します。

学校関連では、子どもの送り迎えが必須であること、午前中に軽食を食べる「ブランチ」と呼ばれる時間があること、制服が無いことが日本と大きく違い、とても驚きました。

地域の施設について、図書館は本の数が非常に多く、貸出から返却された本は機械によって自動的にジャンルや棚ごとに仕分けられ、人はそれらを本棚に戻すだけという効率化を図っていました。この図書館では市民から本の寄付を受け付け中古本として販売した上で、その収益で新たな本を購入するという形をとっていました。また、VR（仮想現実）の体験ができるコーナーがあり、日本の図書館とは違う印象を受けました。

ビラ・ミラ・モンテ・ハウスアンドミュージアムは、ハイラム・モーガンヒル氏が妻に贈った家で、当時使用していたまま残っていて、古い電話機やタイプライターなどをきれいに展示しており、タイプライターを体験させていただくことができました。

その他、レストラン等で残した食べ物を持ち帰ることができることや、日

本と尺度が違い、マイル（1マイルは、約1.6キロメートル）で表示されていることにも驚きました。



【感想文】

初めてだらけだったホームステイで、私はとても貴重な体験をしました。不安と期待を抱えながら渡米しましたが、日本からアメリカは遠く、飛行時間はおよそ9時間でした。ホストファミリーに初めて会ったのは、2日目の歓迎パーティー時で、優しいホストファミリーが迎えて下さったおかげで、一気に不安が和らぎました。

歓迎パーティー終了後、それぞれのホストファミリーの家で初めての夜を過ごし、たどたどしい英語を使ってコミュニケーションをとりました。

土曜日は、全派遣団員とホストファミリーで水族館とプールに行ったことで、皆と距離が縮まりました。

日曜日は、ショッピングモールに行き、ホストファミリーと一緒に買い物をしました。月曜日、全派遣団員でサンノゼ州立大学に行き校内を見学後、技術博物館に行きました。説明文は英語だらけで難しかったですが、展示品を見て理解することができました。その日の夜は翌日から学校に行けることが楽しみで、なかなか寝付けませんでした。

火曜日、1校目は「Jackson Academy of Math & Music」という学校に行きました。この学校では名前のとおり、特に数学と音楽の勉強に力を入れ、全生徒が金管楽器や弦楽器を出来るように指導していて、とても素晴らしいと思いました。

2校目は「San Martin-Gwinn」という学校に行きました。この学校は、スペイン系の親をもつ子どもも学校に通えるように、スペイン語でも授業でやっていました。同じ敷地内に4・5才児から通える幼稚園のようなところが

あり、小さい頃からスペイン語を勉強しながら英語も習えて良いなと思いました。

水曜日、3校目は「Lewis H. Britton Middle School」という学校に行きました。この学校は、2時間目と3時間目の間にランチがあり、生徒間の交流ができるスペースもあることから、とても良いなと思いました。午後には、モーガンヒル市歴史博物館に行き、モーガンヒル市を知ることができて良かったなと思いました。

木曜日、4校目は「Martin Murphy Middle School」という学校に行き、授業を受けた後、Q&Aをしながら昼食を食べました。アメリカの中学生から日本に関する聞きたいことや、アメリカではどんなことをしたいかなど、簡単な英語で質問があり、私達が普段何気なく生活していることがアメリカでは特別なことなのだと、会話の中で分かってとても楽しかったです。また、午後は「Machado School」に行きました。ここは学校として使用するには耐震基準を満たしていないことから、青少年の活動やパーティー等で使用する建物となっていて動植物や地層に関して学んだ後、とうもろこし人形作りを体験しました。

金曜日、「Charter school of Morgan Hill」という学校に行きました。敷地内には、にわとりや山羊、豚が飼育されていて驚きました。この学校では日本の中学校で見ることができない3Dプリンターの実演を見ることができたため、とても楽しかったです。

昼食後、夕方のさよならパーティーでの出し物を練習するため、全派遣団員でダンス等を練習しました。夕方迎えた本番では、緊張がダンスに伝わってしまい上手くできませんでしたが、観ていてくれた方々は、とても盛り上げてくれたため、とても嬉しかったです。さよならパーティーが終盤となり、「この時間が続けば良いな」という一言で、皆涙しました。その後全派遣団員でやったダンスと歌の出し物は、どちらも大成功でした。明日がお別れなので、私達はもちろん、ホームステイ先の子どもも皆、号泣していました。

私は10日間で色々な体験をしたことで、アメリカや英語が好きになったため、これから生きていく中でホームステイができる機会など海外の方と交流できる機会があったら、また挑戦したいと思います。

⑥藤森 博子 瑞穂中学校2年

【ホームステイ先】Kaile Itow さん家族



【報告書】『環境について』

私は今回、町の派遣団員としてアメリカのモーガンヒル市に行き、瑞穂町との環境の違いについて学びに行きました。私が環境の違いに驚いた事が3つあります。

1つ目は気候についてです。滞在期間中、雨は一度も降りませんでした。気温は日中、25度から35度くらいですが、朝と夜は肌寒く、上着を羽織っていました。基本的に湿度が低く、日本よりも過ごしやすい気候だと感じました。しかし、降水量が少ないということもあり、市内にはあまり草木の生えていない丘もありました。

2つ目は洗濯物を室内に干すことです。私は、天気が良く湿気もほとんど無いのに、自分のホームステイ先や他の住宅を見回してみても、外に干している家が無かったため、どうして洗濯物を部屋で干しているのか疑問に思い、ホストファミリーに聞いてみたところ、この地区は景観を損なわないようにルールが決められているからだということが分かりました。

3つ目はリサイクル文化についてです。サンノゼの技術博物館を訪れた時に、入口で案内パンフレットを配っていたため、皆受け取りました。それを見ながら館内を回り楽しんだのですが、出口に箱が用意されていて「パンフ

レットが不要な方は、このリサイクルボックスに入れて下さい」と書かれていました。そのまま家に持ち帰って捨てるとしても、リサイクルごみに捨てる人と、一般ごみとして捨てる人が出てしまうため、出口で回収した方が確実にリサイクルできる資源が増えるのだなと納得しました。こういった仕組みを見ると、個人個人が環境に良い活動をしようという気持ちになるのだと勉強になりました。

モーガンヒル市は日本の夏と比較すると、快適な気候であり、過ごしやすい地域だなと感じました。また、街の美化や環境問題に対する対策を積極的に行っているという事が分かりました。



【感想文】

私は、国際派遣団員の一人として8月15日から25日までモーガンヒル市に行ってきました。成田空港から約9時間のフライトを経て、サンフランシスコ空港に着いた時は、周りの雰囲気や空気などが違うなと感じました。また私自身、初めて飛行機に乗り、海外に滞在することになるので、不安がありました。

しかし、昨年モーガンヒル市から国際交流で来たカイリーさんを私の家でホストファミリーとして迎え入れ、今年は私のホームステイ先としてカイリーさんの家で引き受けてくれることが決まっていたので、もう一度会えるという嬉しい気持ちもありました。

アメリカに着いた初日は、サンフランシスコ市内の視察をしました。その案内をしてくれたのは、カイリーさんの祖母だったこともあり、とてもリラックスできました。カイリーさんと会った時は約1年振りの再会ということもあり最初は緊張していましたが、話をしていくうちに段々と緊張はほぐれていきました。

また、歓迎パーティーには、たくさんの人に参加していただき、その中には昨年国際交流で日本に来た人達も参加していただけたのでとても嬉しかったです。

歓迎パーティーが終了した後には、ホストファミリーの家でホームステイ生活が始まり、自分の英語が通じるのか不安でもありましたが、家族皆が歓迎してくれ、たくさん話しかけてくれたので嬉しかったです。

土曜日の朝食は、日本では食べたこと無いくらいのボリュームのあるステーキが出てきて、とても驚いてしまいました。私は半分食べたところでお腹が一杯になってしまいました。家族はすぐに食べ終わっていました。

火曜日からは学校体験に行きました。数学、英語、理科、社会など多くの授業を受けました。日本の黒板とは違い、ホワイトボードを使用していました。私は、アメリカでは授業中にお菓子を食することが許されていることや、机に座っていても注意されないことにとても驚きました。

休日には、ホストファミリーが色々な計画を立ててくれました。釣りをしたり、川で泳いだり、ミステリースポットという不思議な体験ができる場所にも連れて行ってもらいました。私は釣りをしたのは初めてだったので、魚が釣れた時は達成感があり、嬉しい気持ちになりました。カイリーさんの祖母が、私の釣った魚にパン粉をつけてフライにしたものや、お寿司を作ってくれて、どれもとても美味しかったのを記憶しています。

最終日、学校やホストファミリーと過ごした思い出が沢山思い出されて、お別れを言うのがとても悲しかったです。

滞在期間中は毎日楽しく、貴重な体験から学ぶことが多くありました。日本と海外との生活環境の違いを実感し、そういったことに以前よりも興味を持つことができたので、これからも国際的な関わりを持ち続けたいと思います。

⑦保坂 征 瑞穂第二中学校 2 年

【ホームステイ先】 8/16-8/18 Colin Curto さん家族

8/19-8/21 Robert “Esteban” Schambach さん家族

8/22-8/24 Aiden Lopes さん家族



【報告書】『学校について』

滞在期間中、5つの中学校に行き学校体験をしてきました。その中でアメリカの学校と日本の学校とで違う点をいくつか見つけた中から、3つを紹介します。

1つ目は、パソコンを使う授業をしていたことです。ほとんどの学校でパソコンを使いテーマに沿った事を調べたり、ノートをまとめたりしていました。その中でも特に驚いたのは学校がパソコンを貸し出し、借りたパソコンを使い家で宿題をしていたことです。ある学校では授業の時に、教科書、ノート、筆箱と一緒にパソコンを机の上に出し、先生に「宿題を提出して」と言われたら先生のパソコンにデータを送るという事が、僕にはあまり考えられない出来事でした。

2つ目は、昼食の時間です。瑞穂町の中学校では昼食は給食ですが、僕が学校体験をした5つの中学校には給食が無いため、お弁当を各自で持って来て皆で食べていました。しかも昼食を食べる場所は自分の教室だけでなく、外で食べたり、別の教室で食べたりと日本とは全く違ったのが印象的でした。

しかもお昼になると学校に移動販売車が来て、そこで昼食を買ったり、校内の売店で買うなどして、皆と食べるという光景が多く見られました。

3つ目は、教室についてです。日本の中学校には自分の教室がありますが、僕が学校体験をした5つの中学校には自分の教室がありませんでした。その日その日によって最初に行く教室が変わります。しかも日本では先生が移動することの方が多いですが、これらの学校では生徒達が次の授業をする教室まで移動します。授業の内容は日本と同じで、先生によって授業のやり方に違いがありました。ある先生は外で授業をしていたり、別の先生はテレビを使いながら授業をしていました。また別の先生は、なかなか無い機会だからとホワイトボードに日本語を表示し、僕らが日本語の発音を教える場面もありました。



【感想文】

僕は、滞在期間中ホームステイを通して色々なことを体験しました。その中で、強く印象に残っていることを3つ書きます。

1つ目は人柄です。今回、僕は3家族の家にホームステイさせてもらい、全ての家で買い物や外食に連れて行ってもらいました。店舗で注文する時に店員に対して知り合いのように会話をしていました。休日に出かけた時に道ですれ違った人とも知り合いのように話していて、思わず「知り合いですか?」と聞いてしまったくらいです。どこでも気さくに話しかけていたので、すごいなと思いました。

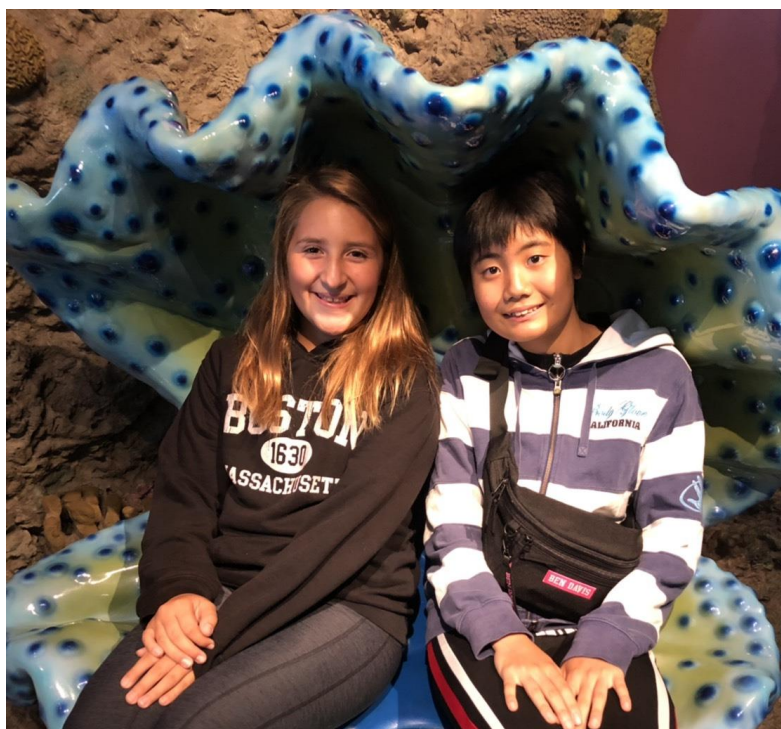
2つ目は家についてです。3家族の家にホームステイさせてもらいましたが、全ての家がとても大きいなと思いました。一軒目はバスルームが2個あってプールを作っている最中でした。二軒目は丘陵地の上にあり、部屋がたくさんありました。三軒目は日本では考えられないくらい多くの部屋があり、

庭には大きなプール、ステーキやピザを焼くためのグリル、公園にあるような遊具がありました。全ての家が日本では考えられない大きさでした。

3つ目は、学校についてです。日本では制服がありますが、僕が学校体験をした5つの中学校には制服がありませんでした。また、授業のやり方が日本と全く違いました。日本では先生が黒板に書いたことを僕達がノートに書くことがほとんどですが、アメリカではほとんどがパソコンを使った授業でした。昼食は持参したお弁当を外で食べたり、学校の売店で買って中で食べたりと、日本とは全く違ってとても驚きました。

今回、僕はアメリカでのホームステイという特別な経験をさせてもらいました。滞在期間中は、日本と違うことだらけで初めてのことばかりでした。最初、ホストファミリーと会った時、緊張してまともに話すこともできなかったのですが、最終日には少し会話ができるようになりとても楽しかったので、日本に帰るのがとても悲しくなっていました。来年彼らが来て、また交流できるのがとても楽しみです。

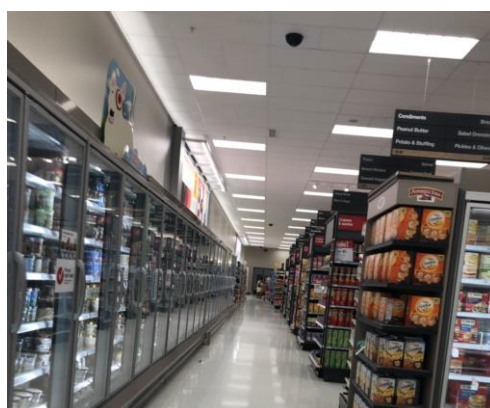
⑧吉積 麻弥 瑞穂第二中学校2年
【ホームステイ先】Abigail Hodges さん家族



【報告書】『商業施設・ショッピングモールについて』

私はアメリカの商業施設やショッピングモールについて調べました。日本のショッピングモールは複数階建てで店舗が並んでいますが、モーガンヒル市内や近隣にあるショッピングモールは平屋建てで店舗が並んでいました。日本は土地が狭いことから、高層建築にすることで多数の店舗を入れることができているのだと改めて気付きました。

2つ目は、お菓子専門店がありました。お菓子専門店にはグミやチョコレートがあり、店員に「味見したいです」と言うとそれらを食べることができました。袋の中に自分が食べたい物を食べただけ入れて購入することができました。お菓子の量り売りは日本でもやっていますが、味見ができるというのは日本では聞いたことが無いので、非常に驚きました。



【感想文】

私は、アメリカに行き学んだ事があります。アメリカ人はとてもフレンドリーなところです。日本人はなかなか知らない人と会話をすることはないですが、アメリカ人はフレンドリーな人がたくさんいました。特にそう感じたのは学校体験で授業を受けていた時です。昨年私が通う中学校で国際交流事業でアメリカから来た子達を受け入れた時、アメリカ人に対して私達中学生は英語があまり話せないため、話しかけようとする人があまりいませんでした。しかしアメリカでは、日本から来ましたと言うとすごく歓迎をして、言葉は英語でしたが、分かりやすい英語でたくさん話しかけてくれました。また、通りすがりに声を掛けてくれたりしました。滞在期間中、そうした接し方をしてくれてとても嬉しかったので、私も日本でそういった場面に出会う事があったら、そうしたいと思いました。

次に、アメリカで貴重な体験をする事ができました。

それはビッグベイスン・レッドウッド州立公園という大きな公園をハイキ

ングしたことです。森林の中を歩いたので、とても空気が綺麗でした。しばらく歩くと、木の幹が裂け、人が入ってしまう空間がある大木がありました。ホストファミリーのアビーさんとソフィアさん（双子）と私の３人でその中に入り写真を撮った事は、とても貴重な体験となりました。

1 1 終わりに

瑞穂町は、平成18（2006）年7月3日【日本時間7月4日】にアメリカ合衆国カリフォルニア州モーガンヒル市と姉妹都市を締結し、社会教育課では平成20（2008）年度から中学生の交流を開始し、今回を含めて44名を派遣し、39名を受け入れ、合計83名の中学生が行き来し、様々な交流が生まれています。今回派遣団として選ばれた8名の中学生は、瑞穂町の代表として自信を持ち、しっかりとした自覚も持ち合わせ、自ら考えた現地での研究テーマを意識しながら学ぶなど、真剣に活動していました。一人ひとりが、多くの方々と関わり、たくさんの交流が生まれ、友好関係を築きました。また、ホームステイを経験し、異文化での生活を体感し、視野が広がったことはもちろん、改めて日本の良さも感じ取れたことと思います。同時に、親への感謝や家族に対する想いを認識したと思います。その他、中学生の感性には、アメリカの空気や環境、その他全てのことが大きく影響したことと思います。また、日本では感じる事ができない貴重な10日間を過ごし、今までの人生で大きな出来事の一つとなったのではないかと思います。

これからの瑞穂町を背負っていく青少年が、アメリカで感じたことを素直に受け入れ、これからの自分の人生に生かし、また、瑞穂町の国際交流にも継続して携わってほしいと願います。

来年度には、今回ホストファミリーとして受け入れてくれた家の子の8人が、瑞穂町を訪れる予定です。そこでも、多くの交流が生まれ、町の国際化がますます盛り上がっていくことを心より願っています。

瑞穂町教育委員会



平成31（2019）年度瑞穂町青少年国際派遣事業

姉妹都市モーガンヒル市派遣団員募集

瑞穂町と姉妹都市であるモーガンヒル市へ中学生8名程度を派遣します。

交流を深めて国際感覚を養うとともに社会性や自立性、感性の向上を目指し、ホームステイを通じてアメリカと日本の文化や慣習の違いを学びます。

また、日常会話に必要な英語力を身につけてコミュニケーション能力を高めます。

派遣先：アメリカ合衆国カリフォルニア州モーガンヒル市

派遣期間：平成31（2019）年8月15日（木）～8月25日（日）

派遣人員：中学生8名程度

主な活動内容：ホームステイ体験、モーガンヒル市内学校学校体験、報告書の作成等。

参加者負担金：一人60,000円

ただし、パスポート取得費用、土産代等は含みません。

派遣者の世帯が要保護・準要保護世帯の場合、参加者負担金を減免します。

※申込み方法等の詳細は裏面に記載

モーガンヒル市の紹介

・人口：約36,000人

・面積：19.31 km²

・平均気温：夏32.3℃ 冬0.9℃



モーガンヒル市はカリフォルニア州サンタクララ郡に属し、サンフランシスコから南へ110kmの位置にあります。1906年の市制施行当初は、牧場や農業、果樹栽培が主な産業でしたが、最近では、ハイテク産業の集積しているシリコンバレーのベッドタウンとして発展しています。市の西側に位置する特徴のある丘「エルトロ（スペイン語で牡牛の意）」



のシルエットが市の公式ロゴとなっています。夏場でも朝夕の冷え込みが強く上着が必要なほどです。時折台風や竜巻に見舞われることがありますが、降雪はほとんどなく、年間平均雨量は480mmで、夏季は乾期が続きます。

令和元年度 瑞穂町青少年国際派遣事業 報告書

令和元年12月

編集・発行：瑞穂町教育委員会 教育部 社会教育課 推進係

〒190-1221

東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎2475番地

電話（042）557-6695（直通）

FAX（042）557-2693